

# 浸透水および地下水の モニタリング調査結果について

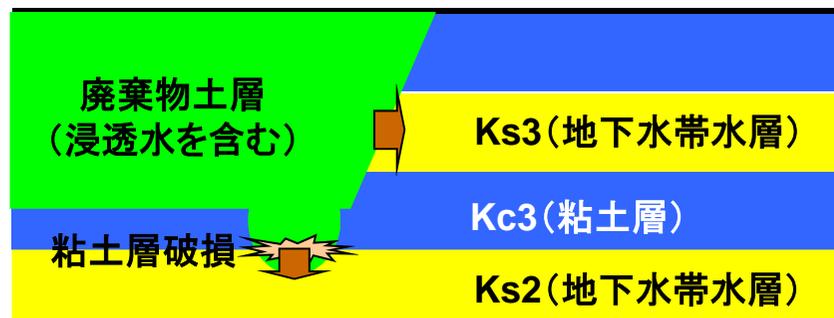
平成26年4月28日



## 調査日

◆ 平成26年2月20日、2月25日(経堂池のみ)

## 浸透水の移流拡散概念図



◆ 廃棄物土層が側面で地下水(Ks3)帯水層に接していることにより、浸透水が地下水に移流拡散している

◆ 底面の粘土層が破損し、廃棄物土層が底面で地下水(Ks2)帯水層に接していることにより、浸透水が地下水に移流拡散している。

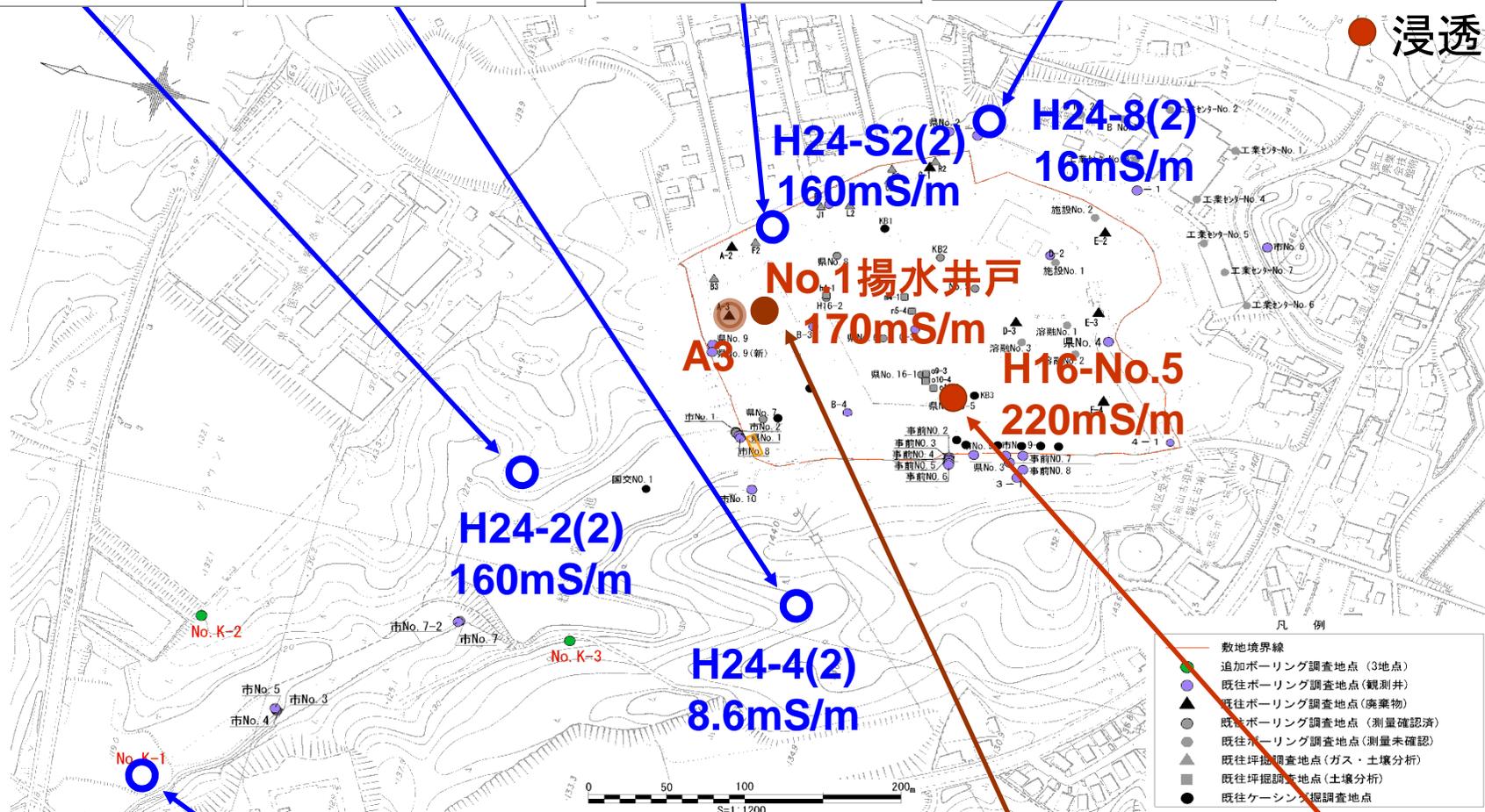
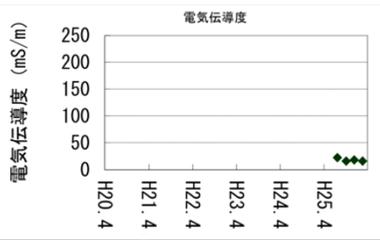
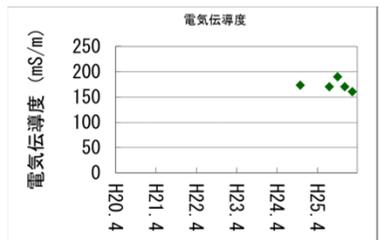
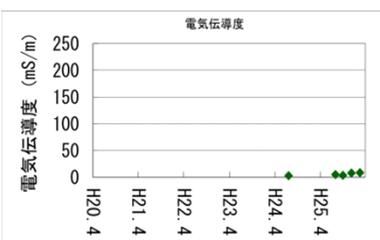
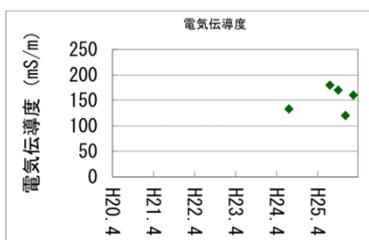
◆ 廃棄物土層を構成する成分のうち、水の流動とともに移動しない物質については廃棄物土を分析し、移動する物質については水質を分析することで重金属等の濃度を把握している。

## 経年変化グラフについて

- ◆ Ks3の地下水採水地点のうちH24-8(2)水量が僅かであったため、pHおよびECのみ確認した。
- ◆ 上記の調査地点の過年度の結果で環境基準を超過した項目(砒素、ふっ素、ほう素、鉛、水銀、1,2-ジクロロエチレン、塩化ビニルモノマー、1,4-ジオキサン)の経年変化を帯水層ごとにグラフ化した。
- ◆ グラフ横軸の始点は、No.1およびH16-No.5を除き、過年度の全調査結果をプロットできるH20.4とした。なお、No.1はH12.4、H16-No.5はH18.4とした。
- ◆ 定量限界値未満の場合、定量限界値にプロットした。なお、水銀は定量下限値と環境基準値が0.0005mg/Lと同じで、検出・不検出の判断ができないことから定量限界値未満について0にプロットした。
- ◆ 平成22年度まで、採水はベラーを用いていたが、井戸ケーシングとの隙間が小さいため、孔内水が攪乱されて井戸の底等の堆積物が巻き上げられ、試料への混入が避けられなかった。このため、平成23年度から、有害物調査検討委員会の意見をもとに、水中ポンプに変更するとともに、孔内水量の4倍量程度をパージした後、水質の安定を確認した上で採水することとした。この結果、堆積物が混入しなくなり、堆積物に吸着・含有されているものの、水に溶出しにくく、水の流れとともに下流に流出しにくい物質(砒素、鉛、ダイオキシン類)の濃度は大きく低下した。  
注) 処分場に由来しない土壤粒子にも、砒素、鉛、ダイオキシン類が吸着・含有されている場合がある。

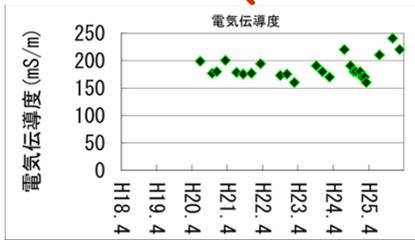
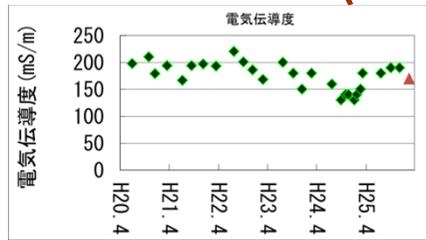
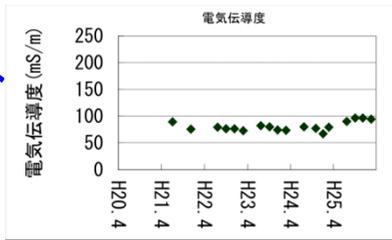
# 電気伝導度

- Ks3
- 浸透水



- 凡例
- 敷地境界線
  - 追加ボーリング調査地点 (3地点)
  - 既往ボーリング調査地点 (観測井)
  - 既往ボーリング調査地点 (廃棄物)
  - 既往ボーリング調査地点 (測量確認済)
  - 既往ボーリング調査地点 (測量未確認)
  - 既往坪地調査地点 (ガス・土壌分析)
  - 既往坪地調査地点 (土壌分析)
  - 既往ケーシング掘調査地点

K-1  
94mS/m



# 電気伝導度

● Ks2

